

# バストス週報

おめはらしく  
 岡目八目 5

## 前賣坊附

何か興行でもやるとき客足を前以て捉えておく事は有利な方法だからキツクの前賣りはどこでも行われる様である。だがバストスのような狭い範囲でこれが行くかえし、くりかえし行われると、つい鼻につくと訴える人がある。

何々会、何々団、が会の費用を捻出するために一興行もくろむ。大いシネマである。大いの人々をシネマなり、館ではないのでシネマ屋さんにたのんで、館の休日にソックスを世話をしてもうか、又は直接業者と連絡してソックスを取り、せ、入場券の前賣りをやる。買わされる方も、寄附のつもりで、嫌な顔はしない。買つてしまおう。経験者の話だと前賣り方だと予定の額に達しないと云う。前賣りはやめられたいけれど、云うから

と云うので、前賣りをやる側になると中々エーウツた相である。割のけられた券をばいりてしまふ。道は近所隣りは勿論遠く遠道を運んで売らねばならぬ。と云う。これは自分でしよ、こんでしまふこともある。おとななりは、どんな細工もできるが、これが中学生などになると、成績が落ちる。子供もある。女子の方では中々勇敢で仕事を遂行するが、男の学生は、でんでさういふ仕事を好まない。中学生が三半になると、修学旅行費捻出と云う大看板をかかひて活動しはじめ、シネマの興行、農業の手伝い、その他金になり相な仕事には、い

それは良いか悪いかという点には、これは触れないことにするが、入場券の前賣りだけは、せせせとくはないといつてなげく。親のいふぶんもきかぬなるまい。中学生が四年になつて七月の休暇を迎える。と喜々として、サンパウロに見学の旅行に出かける。その費用は、大抵三半に道級したときから前記の様にかせたのである。のがあるが、入場券の前売りの人も、かせ

子供に「金」を得ることの六ツかし、即ち金に対する観念を正しく認識させるの役に立つし、働くことの大切なることを教えることになり、かちよいと考ふる向きもあり、又わが子をさういふ親もある。売りに使われたいと思ふ親もある。

第三百九十一号  
 昭和卅二年  
 十月六日  
 発行  
 DIRECTOR  
 KOITI MORI  
 REDATOR  
 SHION ODA  
 RUA PRES.  
 VARGAS 188  
 C. P. 112  
**BASTOS**  
 C. P.  
 ANUAL  
 CR \$  
 100.00

ALFAIATARIA IMPERIAL



丸山洋服店  
 マルヤマの  
 服なればこそ

健康は美をつくり  
 わかもとは健康をつくる

### わかもと



わかもと製薬元  
 日本東京わかもと製薬  
 株式会社  
 伯國總代理店  
 聖市パウリスチ製薬会社

日本の錠剤



わかもと製薬元  
 株式会社

毎月三十錠なり五十錠錠横立てをす  
 れは旅行費は各自にせると計算する人  
 もある。

前賣坊附で一興行やろうとわらつてい  
 る団体には、やむにやまれぬ悲願のこもつ  
 ていられるのが多い。少年野球も陸上部にも  
 系教方面にも何かバストスの文化面精神  
 面に貢献し、つなかりをもち仕事をして

をさす部門には、金がある。寄附にもよるが何  
 とか自分らの手で金を得たいと苦悶する  
 のも、銭にたも話がある。キツク前売りと  
 いう手があれば、一応打って見たいのも  
 またやむを得ぬ成行きであるうか。

(お音)







3  
どういふことではありませんが、ひとりの男と、ひとりの女が、ふたりだけで、話したり、あそんだりすることでもないのです。そんなことも、せんせんしていけないとはいえませんが、それは、なにかとくべつの場合にかざられます。

では、おんをふうにするのが、男女の口ウサイかといいますが、たたくさんの青年男女が、いっしょになつて話したり、あそんだりできる身りのことなのです。たとえは青年生会を、男女でいっしょにつくつて、できるだけ共同で、いろいろなものをおしこきとすることです。もよおしごとをするといつても、それを相談などするにしろ、男だけできめてしまふようなことをしないで、こんなこと、なるべく女をまじえてするのがよろしい。また男女で取談会をして、いろいろの問題について意見を交換し合つてみるということなどは、いちはいい口ウサイのやりかたです。そのほか、しばしば音楽会のようなことも、いっしょにできるでしょう。とにかく同じ年ごあつたものが、たたくさん、いっしょになつて、みんなのみでいる所で話したり、いっしょに結婚まえのたたくし、口ウサイといえるのです。

たたくさん、ふたりきりで、人のみてあない所で話したり、サンボしたり、するといふようなことは、あまりやるべきではありません。まゝ、まゝでふたりだけかシネマへ行くなどは、もう口ウサイといえませんが、トクベツの用もないのに、手紙のやりとりをするといふことも、贈る、口ウサイではないでしょう。(以下次号)

### カネツタ 万年筆

おとした方はありませんか

九月二十九日少年野球のあつた日、外野の草むらの中へ、たたくかカネツタをおとしました。野球かえけい者ではないでしょうが、翌三十日、小田少年がホーラを探しにいつて、ひろいました。心あたりの方は、週報社までおいで下さい。

### 御 礼

金拾 コント也 CR # 10,000.00

右、イグレージャ建築費として御寄贈下さいました  
感激のいたります。

一九五七年十月一日

イグレージャ建築委員会

会計 太郎 田 衛

バストス婦人会 御中

### 御 礼

九月十四日老人演芸会へ左の方々より御花を下さいました  
合計金 九百五十八円也

右は前号通報で寄表通り本会計に納入れイグレージャに寄贈いたしました

- |       |        |       |        |
|-------|--------|-------|--------|
| 森元武雄様 | 佐々木久輔様 | 山根三郎様 | 水馬久様   |
| 伊勢崎様  | 新津中九様  | 佐野木幸様 | ホタル湯野様 |
| 谷口秋子様 | 上西義治様  | 原田惣一様 | シトール様  |
|       |        | 古田義昭様 | 山石田様   |

宗教らん

## バストスの中神学校と

アシジの聖フランシスコのこと

伝道士 吉田 宰 治

皆さまも御承知のとおり、バストスのカトリック教会は、イタリヤ管区のフランシスコ会の神父さまが受持つて、働いておられます。ここに昨年からセミニナリオ(神学校)が設けられて、現在十八名ばかりの少年の神父の卵が神父の指導のもとに修道士と、起居を共にし、規則正しく信仰生活を送り作り、ジナジオ サンジヨセへ進んで、深々勉強しています。中学校を卒業するとローマの大神学校へ入学することになります。

彼らはあの褐色の修道服に、縷帯安の清貧を愛する、聖フランシスコの精神に倣つて、やがて司祭となり、キリストの福音を宣べ、仕事に従ふというのです。

全世界に、今、三万六千名のフランシスコ会の会員(司祭と修道士)がおります。七百五十年の昔から今日まで、人種や国境を越えて、アシジの聖フランシスコの後を継いだ人々のあとか絶えないと云うのは、そこに神の恵みの賜を豊かにうけられた聖フランシスコの生きた大精神が、いまだに泉の氷のように流れているからです。

アシジの聖フランシスコ程、宗教、宗派の別を問わず、すべての人々に愛慕されている聖人は、おま少いのです。全世界のカトリック教会では、ちやうどこの十月四日に聖フランシスコをお祝いします。この機会に同聖人の事蹟を多少でも知ることは、大変ためになることと思ひます。

アシジの聖フランシスコは一一八二年(七七五年前)イタリヤのアシジの町の豪商の家に一人息子として生れ、中学教育を受けました。陽気な性質で青年時代は遊みごとや大盤振舞い

生活がすきでした。人々には無情なことが大さういで、やさしく親切であり、合衆しい人々に施しをするのが喜びでありました。彼は二十五才のとき、戦に出ましたが、傷つる敵の捕虜になりました。病床に横わりながら、いろいろ反省したり、自分の将来について思ひめぐつておると、心に一大変化が起りました。

それまでけ武勇すぐれた騎士の大將になり度いといふ志を抱いておりました。しかし大將の地位も、いったん戦に敗れてみると、みじめなものはかないものであることがよくわかりました。それと反対で、イエス・キリストは十字架にかけられても、いまだ一千半年余り全世界の生きた精神的王として、留んでおられることに考えが及び、死滅しないこのキリスト王にならうと決心するにいたしました。それからよま祈りをするようになりました。

その後故郷のアシジに帰り、その聖堂で、金銀又は銭を袂の帯にもつこと勿れ、旅ぶくろも二枚の下着も、くつ杖も亦ない、それだけ人けの糧を乞ふるに任ずればなり。







エンケイカイ がくやばな

S. こんどやってみて、はじめわかつたことだが一人のもち時間が存外よいかかっている。ヤッぱり一入五分以内とケンテイして、その時間内でできる茶を出してもうより外に方法がない。それとも日曜日の午後から夜までかけて八時間位ぶつとすか

A. あほ、いいないか。二回興行なり知らぬこと。同じお客さんが八時かんも、すわつてるかい  
Y. まあいいとこ。三時間だす。たべもんと同じこつちや、腹八分ちうとこが、一はんええ、長うやたら、きつとあかれる

○いかがわしい賞品  
A. おかしな プレミオ出したちうて、さわぶよつたす。何や、なんぞ?  
Y. あるアルマシヤ、がいたがうしたんや、その賞品、女の子がもろと、とたんに取りかえしにきよつたんで、何のことや、さつぱりわけがわからんが、へんなん、入れてあつちうこ、ちや

A. フニンシンや、社長、こまをやるな  
社長、湯気立てて、おこりよ、たば、だが、ノー、メジン、キヤン、キユー、フリー、うてあきらめなそうや  
Y. 何のことかいな  
A. そりや、ヤクせん方がよかる

○老人演芸 あちこち  
A. 老人会は主催者なしでバズトスが全伯にセンベンつけたわけや、サンバワロでも、あれから二三日でやつたら、い  
Y. アムマンチーナでも、こんどの正月にやるいうとる  
S. 青年男女は、とおく及ばないが、老人には老人とくどくのもちあじがあつて、ええもんではあるの、味をしめて、又やるか  
A. 金もうけに、やるんやないよつてに、気がらくでええわ、仲花も何と一さいが、ささいの献金やたら、すい、とすわ  
Y. こんど目目別なコミッソンのくるんやな (う)

農業らん

# バナタドーセ

小野山 三郎

## 加里

甘藷(バタタ) 馬鈴薯(バナチニア) 砂糖大根、甘藷等は窒素の倍位、加里を吸収する。大体に於て纖維植物は加里を多く吸収し、フエジョン其他の豆類は窒素を多く、吸収する。厩肥が分解してできる窒素が作物に吸収される率、肥料率は大体硫酸の二分の一、堆肥は硫酸の三分の一位とされているから、含まれている上、えのほがきくわけである。堆肥肥の中の加里は水に溶解しやすく、速効性である上、窒素の様に細菌に吸収されることのないもので、肥料率も塩化加里や硫酸加里をみであるから、堆肥や厩肥に含まれる成分の中は加里が一番のネウチものである。今、日本で、ナガヤ(サツペ)の成分と成分の関係をしらべたものによると

八月十五日の K 含量	一四六%
九月十五日の	二一一%
十月十五日の	〇九一%
十月十五日の	〇六一%

上表によると同じサツペでも酸と加里の含量がへつくる。これは生活の相違も原因であるが、枯れた葉等、加里も流れたためである。サツペを畑に入れるには、葉の枯れな中に入れて入れる。こうすると年々回数回刈れるが、堆肥にする時は

必ず硫酸を水にとかして加える。サツペや稲わらにつま山農事試験場の成績をカリると、稲わら三七、五キロの中加里が三、四キロ含まれていたものが、雨に六時間うたせただけに、その間に三、一キロ近く流され、窒素は同時間に一、六キロあったものが、〇、一七キロ流されたにすぎない。

堆肥材料にコロニオン、サツペ、稲葉を用いる時にカサを少くしたり、軽くする為めに雨ざらしにしておくことは、加里を殆んど流したものを使うことになり、窒素の損失もあるし、注意を要することである。同じ材料でも成育の時期と取扱により、加里の含量にちがいがあつて、雨にあわせると水とけやすい、加里の損失が大きい。

窒素は蛋白質を作る時に使ふが、加里は動物の体の組立には、殆んど加わらない。飼料中の甘藷蔓、其他のものにも相当の加里が含まれて居るが、それは大部分は尿の中に出る。尿の中には七〇、八五%、糞に一五%、一三%、尿の割合であるが、飼料中の大部分の加里がききやすい形で尿の中に出ることと思へば、全体の厩肥の価値、肥料を高める上にも、尿溜の必要をことが判つて、いれかけと思つて、

甘藷、馬鈴薯、フエジョン、カサ等の太るのに、加里はなくてはならぬ。わりのある葉は知られて居る。ところが、茎のセンイ素や、デンプンの中には含まれて居ない。然し、茎や葉の俗にアツクといわれるものは、加里によるもので、澱粉が盛んに作られたり貯へられたりするに、澱粉がセンイ素に作りかえられるにも

# カミコシ

Carocella カロサリア

製作をはじめました

永年の経験ある大工さんが担当して、腕前をふるって製作します。御利用下さい。

## 西瓜・トマトの畑に

## 新式追肥機

を御使用下さい

改良 アmendイン 雑穀 フランタ機

各種モートル 修理

# 石橋農具研究所

PHONE 25  
CITY 26



加里は重要な役割を果たしているらしい。又蛋白が作られるにも加里はなくてはならぬものである。私たちの骨折って作る作物にも加里が不足したりすると、葉で作られる澱粉と窒素とを取りまぜ、蛋白を作り上げに行く仕事は順調に行かないで、体内に余分の窒素が溜らうとする。これは植物にとり非常に危険な状態だ。細菌による病気が、こういう状態のところに入り込んで、その分のない養分があるので侵入繁殖する。

○加里と甘藷澱粉の含量に就て  
山口農事試験場の室島幹一氏が研究している  
材料名 加里ヤマトモ、澱粉 加里ヤマトモ、澱粉  
坊干甘藷 六三% 四九%  
生、甘藷 二六% 二三%

加里の多いものは澱粉含量が多くなり、澱粉の質をよくしなことがはつきり判ったと思ふ。  
○松本五樓氏 畑作物の肥培によると  
東京、茨城、千葉、埼玉、岐阜、石川、大分、熊本、神奈川と日本での甘藷の大栽培地の農事試験場の窒素、燐酸、加里の三要素の肥効試験成績の平均をあげると  
N 窒素、P 燐酸、K 加里

ヤマトモ成分	ヤマトモ成分	収量
N, P, K, 三要素	ヤマトモノ収量	一〇〇
K, N ヤマトモ	P ヤマトモ	九〇
K, P ヤマトモ	N ヤマトモ	八四
N, P ヤマトモ	K ヤマトモ	七四
無肥料		六〇

外の肥料をやつても加里をやらぬと甘藷の収量はあつたとへる。大体甘藷を作つて加里の不足する時は葉のつぼみも悪く、葉の質も悪く、古い葉のまわりから褐色に変わって枯れてくる。イネの品質も悪く、収量もへるのが常識である。

- 加里の植物体内に於ける生理的の働きを要約すると、次の事柄の順調な進行に關係があると考へられている。
- 1. 葉で澱粉が作られる。それが他の部分へ運ばれる。
- 2. 澱粉から、ゼンイ素が作られる。細胞膜を厚く丈夫にし、植物の体をしっかりさせる。
- 3. 蛋白が作られるにも役立つ。

# 太郎商店

肥料部の大サービス

## 特別サービス

貴下の土地の土壤分析を致し  
ます故、数ヶ所より採取御持参下さい

肥料は



セイカイシヤ  
正解者に

薄謝進呈

正解者多数、場合ハ抽籤ニテ五名選出

問題

ケストーン?

バストスで現在發賣されているマキナの中で、優美で堅牢で、又一番手がかるに自分のものにするのでござる



何という、みしんでしようか

その取扱店は

何という商店でしようか

みしんのマルカ 久店名

十月三十日まで

週報社へ届くこと

C.P.一二番

### バストス短歌會致

第八十二回例會を山本一男君に於て催した。作品花の通り

高 点 順

湯上りの裸でビール飲む丈に

カーテン買いたる 誌持ち出す

漸く上着したる安らぎに

毛糸の肩の凝りを覚ゆる

手さびしき監督官におひゆる日

商店街は騒音もなし

老ひしらが昔よりたつ村柄を

演武会の名にて披露す

入院の兄の容体氣遣ひつ

ア・フルレンテの街路に降り立つ

毛糸にてバレー人形作りぬる

娘の思惟幼きにほほえみわく

食しきは食しきままに装ひて

修理に持ちくる 穀びー靴

悪口を吐けながらも神父さん

十回目の中子卒業生を出す

雨にぬれぬの痛みを云ふ吾子に

アジア風邪悲しと漏れしや

いささかの芳乳覚えて若草に

こゝろが伴ぐ 雲の流氷を

一日の働き終りモオルゴール

鳴らし本読む時を慰まむ

春日ざし照けて木蔭にうつりたる

子らのままごと 葡萄語がらうにー

- チエ
- すみ子
- 和枝
- 菊子
- 孤舟
- 千代子
- 忠雄
- バウロ
- けし
- 勘一
- 喜平
- 啓



## Oferente de Gados para a Quermesse

皆さん ありがとうございます

### Comissão de Quermesse

Sr.		Sr.	
Sr. Kazuo Sato	1	Sr. Jose de Matos	1
" Sadaichi Mano	1	" Kinsaku Sato	1
" Romeu Vassoler	1	" Kiuchi Atsushi	1
" Joaquim Simão	1	" Kunisaburo Sugai	1
" Hiroshi Kitadani	1	" Kisuke Moriya	1
" Goro Shiguhara	1	" Hisashi Mizuma	1
" Takami Yague	3	" Kitichi Toyoshima	1
" Demildo Ferrari	1	" Yutaka Higashi	1
" Taro Morimoto	1	" Hideo Ono	1
" Aristide Mesquita	2	" Morishita	1
" Daihachi Nomura	1	" Jose Squariz	1
" Zinkiti Maeda	1	" Antonio Yamane	5
" Sebastião Arruda	1	" Paulo Watamabe	1
" Juca Okuda	1	" Carlos Mazomi	1
" Antonio Braga	1	" João Vicente	1
" Masayuki Nishimi	1	" Leonisio Ferrari	1
" Elisses Xavier	1	" Dr. Irineu	4
" João Soares	1	" Pedro Alves	1
" Jose Monteiro	1	" Lindolfo Komno	1
" Assakiti Tokota	1	" Gino Vassoler	1
" Tsuneji Ono	1	" Y. Takeda	1
" João Vassoler	1	" Satoru Nagakashi	1
" Riiti Goto	1	" Osvaldo Squaris	1
" Decil Ferrari (Para Leilão Futuro)			
" Inao Ikeda (P/ Leilão Prenda)			
" Toraiti Kotani			
" Kinsuke Sasaki a dinheiro 500.00			
" Joaze de Andrade			
<b>Total</b>		<b>76.150.00</b>	

## Trabalho do Quermesse deste ano

Descrição	Deve	Haver
Alto Farante	2.619.00	
Barraca da Roleta	29.218.00	
" " " "	7.794.00	
" " Coelho	94.501.00	
" " Tomola	1.900.00	
" " Bar	7.718.00	
Leilão da Prenda	32.937.00	
Quentão	4.378.00	
Leilão de Gado	76.150.00	
Campanha de Café	97.275.00	
Oventuas	971.00	
Lucro Sukiyaki-Kai	3.347.00	
" Baile	600.00	
" Exposições de Onça	3.900.00	
Feito Fujinkai	17.108.00	
Compras Prenda		79.565.90
Despesas Diversas		17.588.40
Contas a Receber		8.640.00
Dinheiro em Caixa		27.111.70
<b>Total</b>	<b>376.906.00</b>	<b>376.906.00</b>

da 15 de junho de 1957 }  
até 8 de Setembro " }

Comissão de Quermesse deste ano  
Leonisio Ferrari (PRESIDENTE)

Romeo Vassoler (auxiliar)  
Mamoru Taroda "

2702 87



# 極山節考 7

深沢 七郎氏作

それから三日目の夜おそく大勢の足音が乱れ勝ちにありん家の前を裏山の方へ通っていった。雨屋の一家が村から居なくなつてしまつたのが村中へ知れわたつたのはその翌日のことだつた。

「もう雨屋のことを云うのはねえを」といふ村中の申し合せがあつて、誰も噂をしなかつた。

十二月になると嚴冬である。陰曆なので月のなかには寒が入つた。子供達が「雪はんはアが舞。アが舞」と騒いだときがあつたのでありんは「おれが山へ行くとさやアアアアと雪が降るぞ」と力んで云つた。雪はんはアといふのは白い小さい虫が舞うことをいふのである。雪の降る前にはこの白い虫が舞いあそぶと云われていたのである。

松やんの腹は痛月になつたことは疑いなく程で、動作も良切れも目につくようになつてきた。あと四日で正月になるという日、ありんは朝早く辰平の起方を待つて外に連れだした。辰平の耳に口を付けて「山へ行つた人達を今夜時ふかみんにならう」と云つてきりりよ。

ありんは明日極山まいりに行くことにきめたのであつた。だから今夜山へ行つた人達を呼んで振舞酒を出さうとしたのだつた。

「まだ早いうちに、来車になつてかりやなきや」と辰平は明日行くのだと云われると面喰つてしまつたのだつた。来車になつたら行くつもりでいたのである。ありんは「バカ！ ちうどはかし早くたつて、早い方がいいぞ、どうせならねすみ、子の生れんうちにい」辰平は気が進まなかつたので返事をしなかつた。ありんは「早くみんなに云つて来い、みんな山へ行つて留守になつてしまふぞ」

その云い方は辰平を絶対服従させる力強さを持っていた。辰平のうしろから追いかぶせるように云つた。

「いいか、云つて来なきや！ 明日おれ一人お山へ行つて」その夜時はた人達は集つたのである。山へ行つた前の夜、振舞酒を出すのであるが、招待される人は山へ行つて来た人達だけに限られていた。おれは遠く酒を御馳走になりながら山へ行くのに必要ないことを教示するのである。集つた人は男が七人、女が一人であつた。この中の女は去年僕で行つたかあるが女で供に行つたことはめづらしいことである。よきよき供のない家では他人にたのんで供になつてもらつたたいがい男が行くのであつた。振舞酒に招待された八人の中でも一番先に往つた者が古参といつて一番發言権が強いのであり、その人が頭（かぶ）のよう存在でみんなの世話人であつた。酒をのむのも一番先であつた。すべてが山へ行つた順がさまるのである。今夜の一番先格は「短気の照やん」といふ人だつた。テルやんは短気ではなく落ちついた五十半生の人であるが、何代か前に照やんの家に短気の人があつたので今でも短気と呼ばれていて、それはアアアアではなく家号のようになつていた。

## おしらせ

来る十月十三日のドミンゴから毎日曜日午前九時より二時間、ヨウ子エシ教室に於て和ルトケース及ラチーノの練習又は予習の指導を致します。現在通学中の中学生、師範生、商業生なら誰れでもよろしい。先生はDR 木村つゞ先生を御願ひすることゝなつて居ります。

as Carpas  
大小さまの  
鯉の子が今年も  
沢山丈夫に去月ちました  
御入用の方へ  
おわけいたします  
エスペランサ区



池戸養鯉場

ありんと辰平は自分の家ではあるが正座に坐つてその前へ客達が下手に並ぶのである。ありんと辰平の前には大きい壺が置いてあつた。これはありんが今夜のため用意した白枝様のおぶろくが一本、入つていゝかめである。

照やんはありんと辰平に向つて先ず改つておじさをする。つかいで客達も揃つて頭を下げた。

照やんは辰平に向つて

「お山まいりはつろろくお入すが御苦労さんでござんす。おれんと辰平は此の席では物を云つてはならぬことになつていた」

照やんは目を凝らすかめと持つて口を當てておじさをする。飲めるおけの人だ。そつて次の人に壺を廻すと、その人が飲めるおけの人で順に廻すのである。終りまでくるとまた照やんの前に持つてくるのである。

照やんはありんに向つて本をさしむような口ぶりで「お山へ行つた物事を云ねこと」

お山へ行つたら物を云ねこと

云い終つたお山は口をあけておじさをする。おじさをする人に向つた。ありんも辰平も今夜客達が教示することではあるが、こつて改まつてきくことが慣わしである。容態を前にして、誓いをたてるようなことにならぬのである。かう一生懸命になつてきいていふ。

壺がまた廻り終つると照やんが次の人の前におかれた。その人がおれんは照やんと同じような口ぶりで「お山へ行つた作法は必ず守つてもらうこと」

云い終つたお山は口をあけておじさをする。おじさをする人が一廻りする。二人百の人の前に置かれた。



その人も照やんと同じような口ぶり

「お山へ行く作法は必ず守ってもらいませう  
一つ、山から帰る時は必ずうしろをふり向かぬこと」

云い終るとまたカメに口を当ててかぶかぶとゆんだ。夏が一  
廻りするとも四人目の前におかれた。三人目まで終つたので  
あるが、四人目の人は楢山へ行く道順を教えるのである。

「お山へ行く道は裏山の橋を渡って次の山の終の木の下の  
池を三度廻って石段から四つ目の山に登ること。頂上に登れば谷のま  
うが楢山さま。谷を右に見て次の山を左に見て進むこと。谷  
廻りは二里半、途中七曲りの道の道があつて、そこが七谷とい  
ふところ。七谷を越せばそこから先は楢山さまの道になる。  
楢山さまは道はあつても道がなく楢の木の間をよへよへと  
登れば神様が待っている」

云い終るとカメが追つて、これであつたのである。この森が  
終れば誰も物を云つてはならぬのである。だから教本を云つた  
四人の以外に誰も物を云うことが出来ないのである。それか  
無言のうちにカメが追つて酒さのみ終るのであるが、飲めぬだけ  
飲もとの人はだつて消えるように去つて行くことに考へて  
いた。照やんだけは最後に帰るのである。みんな帰つてしまつて  
照やんも床を立つたのであるが、立つ時に辰平を床で抱いて  
戸外につれ出した。小聲で

「おい、いやならお山まで行かんでも、七谷の所から、けえ。  
でもないのだよ」

そう云つて、誰もないのに暗い方を見廻しておどおどしてい  
る様子である。

「夏のことと云うな」と辰平は思ったが、おりんはあ  
れ程一心に行こうとしてゐることをだから、そんな馬鹿なこと  
には用はないのだと氣にもとめなかつた。照やんはすぐ  
「オア、これに誰にも聞かれないように教えることになつて  
いるのだから、去らなければ云つておくせ」

そういつて帰つて行つた。

みんなが帰つてしまつた後、おりんも辰平も床の中に入つた。  
だが明日の晩は山へ行くのであるからおりんは眠らうなどは思  
つていなかった。

夜も更けて五三つ刻だろう。おりんは外の方で誰か泣いてい  
る声とさいたのである。わあわあど男の声であった。その声は  
だん近づいてきておりんの家の前に来たのであるが、その声は  
消すように、あいつはゆすりの頭もさへこえたりである。

六根  
お供アらくのようであらうか  
肩の重さを荷のつらさ

ア六根清洋 六根清洋  
おりんは床の中で頭をもち上げて耳をすませた。あの声は  
銭屋の又やんの泣き声だと感づいた。そいで  
「馬鹿な奴だ」と今更に思った。

少しして人の足音がして来たようだった。そいでおりんの  
家の戸をかりかりと風をかきこむ音がした。  
「何だろ？」と起き上つて縁側に出た。かいられているおた  
りの戸をけした。外は月の光で明るい。顔をかくして身体を

ふるわせながら又やんがうすくまっていたのである。

そこへ、何だかたどんで来た男があつた。又やんの侍だ  
つた。侍は手に荒縄を拵つて又やんを睨みつけて立っていた。

おりんは「辰平、辰平」と呼んだ。辰平も眠れなかつた  
しくす出て来た。辰平は銭屋の侍と顔をお互に合せて、手に拵  
つてゐる荒縄を見て、「どうしたんだ」とさいた。

「縄ア食い切つて逃げ出しやあつた」  
侍はまたいまいましをうに又やんを睨んでいた。辰平は  
「馬鹿な奴だ」と銭屋の侍が無様に罵つた。

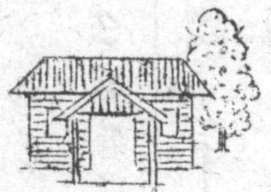
おりんは又やんを  
「馬鹿な奴だ」と罵つて蹴めた。昔かきり歌に  
ついで中ずりや、ゆすられ  
縄も切れる、縁も切れる  
そういふ歌があるけれど、このまは、縄が切れる程ゆす  
られて、金い切つたなどといわれてこれじゃあ、歌の文句以上な  
思つた。おりんは叱るような又やんに云いかけた。

「又やん、つんぼ中ずりよとされるようじゃあ申しわけねえ、山  
の神さんにも、息子にも、生きてゐるうちに縁が切れたやア困  
つた」おりんは自分の正しいと思ふことと親切な氣持で教  
えてやつたのである。

「今更に止めなせよ」  
辰平はそういって又やんをおぶつて銭屋まで送りどけさせ  
た。(ハッパク)

本編はあと二回で終ります

### Vende-se a Casa 住宅賣物あり



ルアファイケーラ街 三二七  
(八重樫辰見氏住宅に於ける)  
井戸水 頗る良好  
キンクル広く  
果樹が沢山  
植えてあります  
詳細は左記へ尋ね下され  
角之藤 靴修理店  
植木商店 向



ツツパン市  
時計修理店  
修理も  
たしか  
時計・万年筆修理  
As melhores canetas do mundo  
estão a sua disposição na  
NOSSA RELOJARIA  
TAMBOIS 735 TUPA



# 慢性の病気は

クスリだけでは治りません  
注射や薬でこじらせず  
病原からの治療しなければダメ。  
慢性病 快治のヒケツは  
マクスナイザーの使用にあり



○マクスナイザー  
は、これまでの  
電気治療器  
と日根本から  
原理も働き  
もちがいます

胃かいよう  
高血圧  
中風  
神経痛ロイマス  
眼病  
不感症 喘息  
胃下垂 其他 一皮おためし下さい  
治療例 驚くべき効果を示す

超長波磁力線治療器  
世界六ヶ国専賣特許  
製造元 川崎電工産業株式会社  
伯国代理店 オーミリミターズ

御用命付 植木商店

# 農家へ御注意

某乙のC氏が三車程使っていたカマフライトを都合上解雇し、賃銀の外、五、六コソリの金を与えたと云ふ。カマフライト君、たれかにそののめされて、退職手当十六コソリを要求し、たれかには労働局に訴へると云いかけた。C氏もいさかかり上、丁氏がある弁護士に仲裁を依頼した由。日雇関係の場合、正式契約書等に記載なき限りカマフライトの退職金規定はない由であるが、長い期間雇傭関係を結ぶ場合、一衣相手方に退職金など出せないことを話し合っておく方がよいかと思はれる。かのカマフライト君は、さく所にすると、悪質者ではなかつた相であるから、チエのある先輩におそわつたものがあるうが、最後に、そんな風に粘られると、気持ちわるい。

春 雑 念腹先生選

いつまでも若き母なり春日今 北眼  
飛ぶ起さぬ約におくれし朝露かな 菊子  
春日と言へば女エヤ 汗うかべ 宛南子  
日雇は待つ朝露の癖つきて 修お

まよい手紙

佐藤キワ子様 ベラビスタ 阿部よしとら  
小沢敦子様 若手泉江利町小沢雅子より  
週報 社にあり

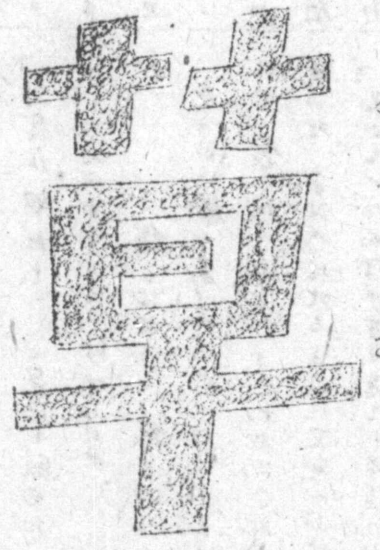
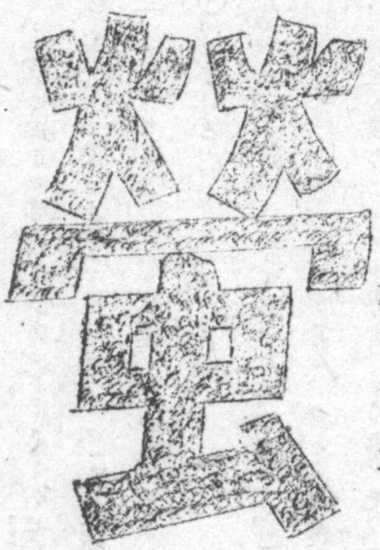
# 日本の文豪 久米正雄 問題の出世作

久米が若き日の自分の恋愛に取材して日本文学史に輝かしい金字塔を打樹した不朽の名作「螢草」の映画化。絶対に敗れぬ人生競争！愛と誇りのために全生命を賭けて争い競う宿命の男女！死を以て報いる女の誇り、息が止まる興奮巨篇

原作 久米正雄  
脚色 久板栄  
監督 佐々木啓祐  
来る十月 十一日 夜八時  
十二日

シネ・バンダイラシテ

に於て



SHOCHIKU FILM

# Orgulho Que Condena

医学士 野村辰雄  
大木のライバル 星野護  
大木の人 黒川金吾  
松子 塚山澄子  
秋山又人  
探田まき  
堀田咲子  
森す淑子  
大木 実  
菅佐原英一  
三島 耕  
島崎雪子  
三宅 那子  
市川春代  
紙京子  
由美あかさ

幼々と胸をうった文豪久米氏の筆を  
演出陣は火の情熱を以て再現！  
ここに映画芸術の粋を生かすに到る  
来りて文芸映画のくりひみあはる甘  
美と豪華のいぶきに接し給へ！